

令和4年度

海陽中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業規律を確保し、わかる授業、意欲を引き出す授業を実践する。
- ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。
(家庭学習の充実)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 百々 佳代	委員	1学年主任	松岡 恵美
		2学年主任	鳥澤 和佳
		3学年主任	小泉 小百合
		推進委員	富田 浩章

校長

龍田 雅和

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を問う課題に対しては、意欲的・積極的に取り組むことができている。 ●身につけた知識や技能を定着させるための家庭学習が、日々の生活の中に定着していない生徒がいる。	①積極的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ②家庭学習が毎日の生活の中に定着している。	①授業目標の明示や振り返りを行い、基礎的・基本的な知識・技能が身につくようわかりやすい授業を実践する。 ②家庭学習への積極的・主体的な取り組みを促し、家庭学習調査を実施する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○総合的な学習の時間やキャリア教育を通して課題を解決するために、自分の考えをまとめ表現しようとする態度は身につくつある。 ●語彙が少なく、自分の考えや思いを筋道を立てて説明することや表現することに課題がある。	①自分の考えをわかりやすく説明したり、文章表現したりすることができる。 ②他者の意見に対して、自分なりの考えをもつことができる。また、それらを適切に表現し学びを深めることができる。	①各教科や総合的な学習の時間において、思考を要する課題を明示し、自らの考え方を説明(表現)する機会を設定する。 ②ICTを活用し、多様な意見や情報に触れさせる。様々な情報等をふまえた上で、他者と意見交換をする場を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、意欲的・積極的に取り組むことができ、定期テスト前の学習に真面目に取り組むことができる。 ●自ら課題を見つけて積極的に取り組む姿勢や、将来への展望を持つことに対して課題がある。	①目標や課題意識を持って、意欲的に授業に取り組むことができる。 ②将来への展望を持ち、課題に対して主体的、積極的に取り組むことができる。	①各教科の学習や特別活動等において目標を設定し、主体的に取り組めるように促す。 ②町内関係機関等と連携し、総合的な学習の時間の充実を図るなど体験活動を通してキャリア教育を推進する。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

